

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策と間伐材を使った工作」

1 実施日時 令和3年6月13日(日) 10:00~14:00

2 参加講師名 森林インストラクターしずおか

担当者 中川、杉山

アシスト会員 青野、矢下、高橋、大石、佐野

3 参加者 30人(大人16人、子ども14人)

4 概要

コロナ禍もあってか休日の野外活動が見直され応募者が多く、今回も9家族30の方が抽選によって参加が決まったそうです。今回も、密を避けるため1家族ないし2家族に1人のインストラクターで対応しました。雨の心配がありましたが、高山にはほとんど雨が落ちず、暑くもなく良好なコンディションの中で森の散策や、間伐材クラフトができました。カモシカが早速、皆さんを出迎えてくれ、興奮気味で始めました。その様子を報告します。

【森の散策】

「今日の高山の森は、何色に見えますか?」、「濃い緑」とお父さん。「緑は心地よいですか?」、「うん、いい!」と男の子。ということで今日は「緑は人の心に何故、心地よいのでしょうか」、「山は海と水を介して繋がってるよ」、「木同士も話をしてるよ、森は賑やか」をポイントに歩きます。これはある班の、今日の森の散策のテーマです。このように各班それぞれに独自のテーマで森を歩きました。

まず目に入ったのが、葉を白く変色させたマタタビです。「花の咲く時期に、虫を呼び寄せるために白くなるのです。」その説明に参加者は、植物にも知恵があるのだと初めて気付いてくれました。イワガラミが見事にスギに巻き付いています。その葉の香りや齧ったときの味がキュウリとそっくり。驚いたようです。装飾花の萼片の数で、イワガラミとツルアジサイの違いを説明しました。ヘビイチゴがあちらこちらに見られました。他のイチゴは? 駐車場でやっとなガイチゴを見つけました。味覚体験をしてもらいましたが、まだ小さくて美味しくありませんでした。目立つ植物があります。ドクダミです。じっくり観察してもらいました。花卉のように見える苞葉の大きさが違うことに気付いたので、大きさの違う理由を説明しました。「蕾を包んでいる時に初めに小さい苞葉が覆い、次に2枚がその上を覆い、最後に大きな苞葉が全体を覆うから大きさが違うんです」。スイカズラが咲いていました。昔、子ども達がこの蜜を吸って遊んでいたこと、それが名前の由来になったことを説明しました。

森の中に入りました。森のオーケストラ(鳥の囀り、葉擦れの音、風の音など)を聞きながら、森のハイパーソニックサウンド(人は耳では聞こえない超高周波を皮膚で聞いていて、それが人の免疫力を高め、心の豊かさを生む効果があるという研究)の話題を説明しました。これからの森の在り方や、過ごし方に大きな影響を与えるかも知れません。高山の池でモリアオガエルの卵塊を見てもらいました。木の上にある卵塊を見て皆びっくり。あそこからオタマジャクシが落ちてきて「ほらッ!そこに泳いでいるでしょ?」。今日は姿が見えないけれど、イモリが下で待ち構えていることも教えてあげました。

ここから、山頂を目指す班、中間展望台を目指す班と別れます。中間展望台では、大声を発して、こだまが返ってくるのを楽しみました。アリジゴクにも興味津々でした。山頂への道すがら、サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウの香りの違いやクロモジ、クサギ、アブラチャン、シモバシラなど個性ある香り、甘く漂うコアジサイの香りを楽しみました。また、実生のスギ、ヒノキ、コアジサイが多数観察され、自然界の逞しさを実感してもらいました。一本のヒノキに目を向けてもらい、斜面の上と下で根の張り方を変え、自力で倒れないよう頑張っている姿を見てもらいました。山頂では、富士山は見えなかったものの、市内が見渡せたので、「自分の家見つけ」をやりました。

山頂で暫く休憩してから下山です。途中、ウラジロの葉を飛ばして遊びました。子どもはこの遊びが大変気に入った様子でした。また、ガードレールの上にソーセージのような黒っぽい動物の糞がありました。お母さんが「〇〇ちゃんのウンチに似ているね」と言ったので犯人はサルであると明かしました。野生のサルがいることに皆驚いていました。最後にミズメの香りを嗅いで、疲れを癒してもらいました。

【間伐材を使った工作・パズル作り】

間伐材から作られた木箱などを細かくした端材を組み合わせ、あらかじめ作られた段ボール製のケースにうまく収まるようにはめ込んでいく作業です。「"やる気と根気"が必要だ!」とはっぱをかけられ、スタートしました。

長方形、正方形、三角形など色々な形やサイズの端材を、縦にしたり横にしたり、あれこれ考えながらはめ込んでいくのですが、どうもうまくゆきません。もう少しのところでもたやり直し、見ている親もつい手が出てしまいます。それでも最後の一つは、残った隙間の形に加工できるというルールになっているので、ノコギリでそのサイズに切断すると、最後にぴったりとはまって「ほッ!」とします。

次は、そのパズルに好きな絵を描いていきます。花や動物、山、風景と好みの絵が見る見るうちに描かれていき、子供らしいオリジナルパズルの完成となりました。「ふー、やっとできた!」と誇らしげな子ども達。親はというと「やれやれ!」という顔をしています。親子ともども満足顔に見えました。

「今日一日楽しかった!」という声が聞こえ、うれしい気持ちになりました。

(報告のまとめ 杉山)

5 写真



以上のおり、報告します。

NPO 森林インストラクターしずおか
理事長 青野ダイチ